

「企業の農業参入支援セミナー」事業実施報告書

1 趣旨

国際紛争や地球温暖化などを背景に、国際的に食料需給が不安定化し食料安全保障のリスクの高まりにより、食料自給の重要性が増すなか、農業は「守り」から「攻め」の成長産業へと進化しています。平成21年の農地法改正によるリース方式での農業参入の自由化を機に、SDGs推進や事業多角化の新たな柱として農業に挑戦する企業が全国で増加しています。

本セミナーでは、新たに農業参入する企業の最新動向を紹介するとともに、三重県内で農業参入した企業のリアルな情報をお話いただき、参入をお考えの企業向けの個別の相談も併せて実施しました。

なお、令和7年1月24日に株式会社三十三銀行、株式会社三十三総研及び当センターの3者で農業振興に関する連携協定を締結したところであり、本セミナーは連携業務の一環として三者共催で実施したものです。

- 2 主催 公益財団法人三重県農林水産支援センター
株式会社三十三銀行
株式会社三十三総研

- 3 開催日時 令和8年3月3日（火）13時～15時30分
（個別相談会：15時30分～16時30分）

- 4 開催場所 四日市商工会議所 1階会議所ホール
（四日市市諏訪町2-5）

5 研修会内容

内容
【第1部】 講演（13:05～13:45） 「企業における農業参入の意義・最新動向」 株式会社農林中金総合研究所 主事研究員 石田 一喜 氏
【第2部】 パネルディスカッション（14:00～15:30） 「農業参入事例からビジネスの可能性を探る」 コーディネーター 株式会社農林中金総合研究所 主事研究員 石田 一喜 氏 パネラー 株式会社トーヨーフーズ 河村 義浩 氏 株式会社日商 杉野 俊弘 氏 社会福祉法人朋友 伊藤 良一 氏
【第3部】 個別相談会（15:30～16:30）

6 参加者数 51 名

(企業担当者 24 名、金融機関等 3 名、行政等 19 名、その他 5 名)

7 実施概要

(1) 基調講演「企業における農業参入の意義・最新動向」

株式会社農林中金総合研究所 石田 一喜 氏を講師にお招きし、「企業における農業参入の意義・最新動向」というテーマでご講演をいただきました。講演では、企業の農業参入の動向とメリットを統計データを交えながらわかりやすくご説明いただくとともに、M&A などによる農業参入についてもご紹介いただきました。

(2) パネルディスカッション「農業参入事例からビジネスの可能性を探る」

基調講演で講演いただいた石田氏にコーディネーターを務めていただき、県内で農業参入の実績のある企業をパネラーとして、農業参入したきっかけ、どのように参入に向けた準備を進めたか、苦労したことなど、具体的な話を語っていただきました。

(3) 個別相談会

三重県農林水産支援センター及び三十三総研の職員が、企業の農業参入に関する相談会を開催しました。事前に申込のあった企業 4 社に対し、企業毎の相談にお応えしました。

(4) アンケート回答

参加者にアンケートを実施したところ、その内容は以下のとおりでした。

【基調講演】

- ・過去と現在の比較など近年の動向が良くわかった。
- ・改めて、農業経営者、農業従事者の減少速度がすさまじいペースであることを認識しました。
- ・総論的な話が多かったので、個別事例がもっと聞きたかった。
- ・参入が一からではなく、M&A で開始できるという説明が参考になった。
- ・企業が農業に参入するメリットや法制度が良くわかった。
- ・農地関連制度、企業の農業参入の例の話が参考になった。
- ・県内農業における経営体と従事者の減少が著しい現状と農業を維持していくためには、企業の参入が期待されることがよく理解できた。
- ・企業の参入方式、形態の具体的な内容を把握することができた。

【パネルディスカッション】

- ・経営者から直接、苦労した話他、社会貢献しているところなどの話を聞けて良かった。
- ・「社会貢献」を意識して取り組まれていることがわかった。

- ・ 農業参入や販路の経緯など、生の話を聞けて参考になりました。
- ・ 人材的に経営的にも余力のある企業でないと参入は難しいと感じた。
- ・ 苦労したことや販路が重要である等のお話が聞けて良かったです。
- ・ 参入における壁を乗り越えた経験談は参考になった。また、出口(販路)の確保の重要性を確認できた。



写真 セミナーの様子